

「難聴が疑われている精密検査期間を受診した0歳—6歳児についての社会的調査」について

加古川中央市民病院耳鼻咽喉科は、成育医療センター耳鼻咽喉科の研究に参加しております。内容については下記の通りとなっております。

尚、この研究についてご質問などございましたら、最後に記載しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

乳幼児の難聴早期発見をするための機会として、0歳児の新生児聴覚スクリーニング、1歳6か月健診、3歳児健診および就学時健診があるが、その他に家族が心配して小児科医や耳鼻科医に助言を求めることがあります。本来難聴は早期に発見されることにより、早期から補聴器や療育などの介入を行うことが可能な良好なコミュニケーション能力が期待できる。しかし、健診や助言を聞く機会がなく難聴の発見が遅れた症例も少なくない。

0歳から6歳まで継続的に調査を実施していくことにより年ごとの全国的な傾向を分析することを目的としています。

これにより、新生児難聴スクリーニングやその他の健診と難聴発見年齢について解析し、日本耳鼻咽喉科学会から早期に難聴を発見するための健診のあり方などを提言していただくことを目的としています。

【研究期間】

研究期間：～2022年3月31日

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

小児難聴の精密検査期間に対して、難聴が疑われて受診した0歳、1歳、2歳、3歳、4歳、5歳および6歳児の患者さんより

受診した契機、発見された難聴児の人数、難聴の種類、難聴発見後の療育の有無についての項目でアンケート調査を行います。

【個人情報保護の方法】

データは人数のみを集計したデータであり、患者さんの個人情報が存在しない状態で日本耳鼻咽喉科学会事務局へ送付される。日本耳鼻咽喉科学会で集計されたデータが成育医療センターへ提供される。調査で得られた患者さんのデータは本調査の目的以外では使用しません。

【データおよび試料提供による利益・不利益】

利益：通常診療の情報をういており、データをご提供いただいた患者さんの個人には特に利益になるようなことはございません。

不利益：カルテからのデータのみ利用するため特にありません。

【登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて】

個々の情報および解析結果は日本耳鼻咽喉科学会事務局内の施錠されたキャビネットに保管されます。国立成育医療センターでも、センター内の施錠したキャビネットに保管します。

研究終了後5年経過したのち廃棄いたします。

【研究成果の公表について】

調査結果は日本耳鼻咽喉科学会が主宰する講演会で公表を行うとともに、日本耳鼻咽喉科学会誌上およびホームページ上に調査報告書を掲載して情報公開する。その際、個人や地域などの情報が特定する情報は公開いたしません。

【研究へのデータ使用の取りやめについて】

いつでも可能です。患者さんのデータを用いたくない場合には、下記【問い合わせ窓口】までご連絡ください。取りやめの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータは本研究に用いることはありません。しかしながら同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように廃棄できない場合もあります。

【問い合わせ窓口】

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい場合や、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究プロジェクトに関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 耳鼻咽喉科
安井 理絵
連絡先：079-451-5500